

西彼保健所感染症情報

令和7年 第 33 週 令和7年8月11日 ～ 令和7年8月17日

全数把握対象感染症 発生状況

※報告日週掲載 (県作成速報：診断日週掲載)

一類感染症	報告なし
二類感染症	報告なし
三類感染症	報告なし
四類感染症	報告なし
五類感染症	報告なし

定点把握の対象となる5類感染症発生状況 (定点医療機関当たり患者数) ↑;前週より増加 ↑↑;2週連続増加 ↑↑↑;急増

疾病名	週別 発生状況		基準値			疾病名	週別 発生状況		基準値		
			警報レベル		注意 報レベル				警報レベル		注意 報レベル
	32 週	33 週	開始	終息			32 週	33 週	開始	終息	
インフルエンザ定点	0.00	0.20	30	10	10	突発性発しん	0.00	0.33 ↑			
COVID-19	6.00	2.40				ヘルパンギーナ	0.00	0.00	6	2	
急性呼吸器感染症（ARI）	85.00 ↑↑	36.80				流行性耳下腺炎	0.33	0.00	6	2	3
R S ウイルス感染症	2.00 ↑↑↑	0.67				急性出血性結膜炎	0.00	0.00	1	0.1	
咽頭結膜熱	0.33 ↑	0.67 ↑↑	3	1		流行性角結膜炎	2.00 ↑↑	1.00	8	4	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.00	1.00	8	4		細菌性髄膜炎	0.00	0.00			
感染性胃腸炎	3.33	2.00	20	12		無菌性髄膜炎	0.00	0.00			
水痘	0.00	0.33 ↑	2	1	1	マイコプラズマ肺炎	1.00 ↑↑	1.00			
手足口病	0.00	0.00	5	2		クラミジア肺炎	0.00	0.00			
伝染性紅斑（リンゴ病）	2.33 警報	0.67	2	1		感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.00	0.00			

トピックス・季節情報

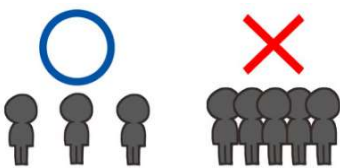
※第33週のデータは、定点医療機関のお盆休みの期間が含まれています

咽頭結膜熱が増加傾向にあります



咽頭結膜熱とは、アデノウイルスが原因病原体であり、発熱、咽頭炎、眼症状を主とする小児の急性ウイルス性感染症です。かつてはプール利用時の接触やタオルの貸し借り等で流行することがあったため、俗称として「プール熱」と呼ばれていました。

- 潜伏期間：5～7日
- 感染経路：飛まつ感染あるいは接触感染が主な感染経路です。
- 主な症状：1日の間に39～40度の高熱と37～38度未満の微熱の間を上がったたり下がったりすることが4～5日ほど続き、扁桃腺が腫れ、喉の痛みをとまいません。その間、頭痛、腹痛、下痢のほか、首のリンパ節が腫れることがあります。加えて、両目または片目が真っ赤に充血し、目やにが出るなどの結膜炎症状がみられる場合、咽頭結膜熱と診断されます。



咽頭結膜熱を起こすウイルスには消毒用エタノールの消毒効果は弱いので、予防としては日頃から密接な接触を避けること、こまめに流水と石鹸による手洗いをおこなってください。

咽頭結膜熱発生動向 定点医療機関あたりの報告数 (週)

